

岐阜市予算案 伊奈波神社参道、植樹から40年

シダレザクラ並木再整備



シダレザクラが植えられた伊奈波神社参道。一部が枯れた木も多く見られる。岐阜市伊奈波通

岐阜市は2025年度、市内の桜の名所で知られる伊奈波神社参道(同市伊奈波通)のシダレザクラ並木の再整備に乗り出す。市道沿い約400㍍の区間で植樹から約40年がたち、一部が枯れるなどしていた老木約50本を植え替える。周辺は近年、古民家に飲食店の出店が増えているエリアで、にぎわいの波及効果を狙う。

老木50本植え替え

国の補助金を活用し、25年度一般会計当初予算案に1100万円を計上した。参道のシダレザクラは、岐阜信用金庫が寄贈して植えられ毎年春にピンクの花を咲かせる。参道でイルミネーションも行われるなど、市民に親しまれてきた。しかし近年は、枯れて花をほとんど咲かせない木や、上部が枯れた状態の木などが目立ち、地域住民からも「5、6年ほど前から元気がない木が増えた」と

感じていた」といった声が聞かれた。市は23年度、樹木など緑の多様な機能をまちづくりに生かす市グリーンインフラ計画を策定。今回は同計画に基づく整備で、樹木の種類や高さ、間隔を適正にする管理や、緑を生かしたランドマークの形成などを通して、過ごしやすい街の統一感などを向上させるのが狙い。

市によると、植え替え後、できる限り早い時期に花が楽しめるよう管理を徹底する。市担当者は「他県では街路樹が倒れてけがをする事故もあり、街路樹の管理は全国でも課題。適正な管理で、さらに良好な都市景観を形成し、地域活性化に寄与したい」と話す。

伊奈波神社周辺エリアで古民家の利活用を支援する、まちづくり会社「岐阜まち家守」の取締役事務局長を務める松枝朋子さん(48)は「木によって咲かない年もあるなど、元気がなかった」と植え替え整備を歓迎。「シダレザクラの並木はなくてはならない景色で地域の宝物。きれいな桜になってくれれば」と期待を込めた。(小田香緒里)